

下 水 道 課

# 管 理 係

## 1 多摩川上流流域下水道

流域下水道は、公共用水域の水質の保全を図ることを大きな目的とし、河川の流域をひとつの単位として個々の市町村の下水を集め、効率よく、経済的に処理をしようとするものである。

### 50年度事業概要

種 別	工 事 概 要	金 額
多摩川上流幹線	内径 1,500mm~2,000mm (434.0m) 内径 1,350mm (8.7m)	173,071千円
処 理 場	土木工事 水処理施設 汚泥処理施設 用地買収(1,884.27m <sup>2</sup> )	2,247,000
事 務 費	補 償 費 等	431,457
合 計		2,851,528

### 福生市の負担金

内 訳	負 担 金 額
主要排水施設建設費	8,763,243円
終末処理場建設費	39,058,080
事務諸経費	12,732,589
補償費	2,141,522
前年度過不足負担額	2,082,378
合 計	64,777,812

## 2 青梅、羽村、福生地区都市下水路組合

都市下水路の建設事業は、昭和36年5月23日、青梅市、羽村町、福生町の当時1市2町により一部事務組合を設置し、昭和36年10月27日に計画決定及び事業決定がなされ、直ちに事業に着手し、昭和42年をもって、7年にわたる事業を完了した。

これにより、水質検査所の技術職員により、関連工場汚水の浄化のため、定例的、あるいは抜き打ち的に検査を実施し、口頭での申し入れ、あるいは改善命令により、改善を実施した。

なお、本年度は、群馬県前橋市の下水処理場等に行政視察を実施しました。

### 都市下水路組合の概要

- (1) 組合設立 昭和36年5月23日
- (2) 構成団体 青梅市、羽村町、福生市
- (3) 都市下水路の規模

ア 路線延長 7,377.26メートル

形 式	寸 法	延 長
知 形 渠	3.3 × 3.3 m	832.62 m
"	3.0 × 3.0	1250.64
"	3.0 × 2.1	112.30
"	2.4 × 2.4	346.20
"	2.1 × 2.1	408.00
管 渠	2.0	153.90
柵 渠	3.0 × 3.0	418.36
吐 口	$\frac{5.34}{3.45} \times 3.15$	90.00

- イ 排水面積 西武蔵台排水区 977ヘクタール
- ウ 執行年度 昭和36年度～昭和42年度
- エ 事業決定 昭和36年10月27日 建設省告示第2413号
- オ 都市下水路の指定

昭和45年2月10日

- (4) 水質検査所の規模

総面積 187.50平方メートル

事務室・検査室 160.00平方メートル

車庫 27.50平方メートル

構造 鉄骨平屋造り

(5) 昭和50年度関係市町分担金

青梅 4 3,0 0 5 千円                      羽村 3 2,1 8 6 千円  
 福生 3,8 4 3 千円

3 多摩川上流流域下水道促進協議会

本会は、東京都の施行している多摩川上流流域下水道事業の早期完成と、経済的効率的事業推進を図るため、昭和47年立川、青梅、昭島、福生、武蔵村山、羽村、瑞穂の7市町により発足をした。

本年度の主な事業は、次のとおりです。

- 8月 6日 多摩川上流流域下水道促進協議会役員会(昭島市福祉会館)
  - 10月 9日 多摩川上流流域下水道事業負担金に係る基地分負担金申請(東京防衛施設局)
  - 10月29日 基地分に係る流域下水道事業負担金の格上げに関する要望(防衛施設庁)
  - 11月13日~14日 印旛沼流域下水道花見川終末処理場視察
- 多摩川上流流域下水道事業負担金に係る基地分負担金

管		渠		
排除面積	基地面積	基地比率	市分担金	基地分
918ha	329ha	35.8%	105,269千円	37,686千円
17	0	0	48	0

処 理 場					
排除人口	市汚水量	基地汚水量	基地比率	市分担額	基地分
61,000人	27,000m³	4,777m³	17.6%	41,568千円	7,315千円

合 計	
市分担額	基地分
146,885千円	45,001千円

- 注 1 管渠欄の上段は、多摩川上流幹線、下段は、残堀幹線を示す。
- 2 基地内計画人口密度 50人/ヘクタール
- 3 計画汚水量 440リットル

#### 4 起債の状況

##### (1) 起債の状況(昭和50年度借入分)

事業名	許可額	資金区分*			
		大蔵省	公営企業 金融公庫	埼玉銀行	東京都
流域下水道事業	千円 52,500	千円 31,000	千円 5,200	千円 5,300	千円 11,000
公共下水道事業	264,600	128,600	8,000	128,000	0
合計	317,100	159,600	13,200	133,300	11,000

##### (2) 起債額の状況(昭和50年度まで累計)

区分		借入元金	償還済元金	未償還元金
目的別	流域下水道事業	千円 311,800	千円 710	千円 311,090
	公共下水道事業	335,600	0	335,600
合計		647,400	710	646,690
借入先別	大蔵省	382,000	0	382,000
	公営企業金融公庫	47,500	0	47,500
	埼玉銀行	157,900	0	157,900
	東京都	60,000	710	59,290
合計		647,400	710	646,690

# 計 画 係

## 1 福生市公共下水道計画

福生市の人口は、加美平、武蔵野台地区の区画、整理事業に伴って生じた住宅用地や工業用地の造成や多摩河原地区の住宅公団の福生団地の完成で、急激に増加しつつある。このような人口の増加に伴い、大量の汚水が発生していますが、この汚水を衛生的に処理し、住みよい都市環境をつくるため、下水道施設の早急な整備が必要である。

そこで、本市においても、多摩川左岸多摩川流域下水道に接続すべく、公共下水道計画を、昭和47年度に策定し、昭和48年度から昭和52年度までの第一期事業計画を策定し、事業認可となった。

計画の概要(昭和48年度～昭和60年度)

項 目	数	値	摘 要
計画処理区域		991.4 ha	全区域自然流下
計画排水区域		953.9 ha	合流区域を除いた面積
計画処理人口		61,000 人	流域下水道計画
下水排除方式	分流式	953.9 ha	
	合流式	37.5 ha	
家庭汚水量	日平均汚水量	360 ℓ/日/人	それぞれ地下水量 40 ℓ含む
	日最大 "	440 "	
	時間最大 "	640 "	

第一期事業概要(昭和48年度～昭和52年度)

項 目	数	値
予定処理区域及び 予定排水区域	汚 水	131 ha
	雨 水	126.56 ha
管 渠 の 延 長	汚 水	38,025 m
	雨 水	20,797 m

## 2 公共下水道污水管実施設計委託

第一期事業計画に基づき、より一層強力に事業を推進するためには、それに見合う実施設計が必要である。このため本年度は、次の実施設計を委託した。

場 所	金 額	内 容
熊 牛 地 区	1,162,000円	設計延長約1,424m 内径250mm
志 茂 地 区	1,485,000円	設計延長約1,629m 内径250mm
福 生 地 区	2,750,000円	設計延長約 5,000m 内径200~600mm
福 生 地 区	4,600,000円	設計延長約10,150m 内径200~450mm

## 3 第二期事業認可設計業務委託

第一期事業認可区域も、昭和52年度までとして認可されましたが、これに伴い、引き続き工事を行うためには、第一期事業認可区域外についても、認可を取らなければなりません。

そこで、第二期事業認可設計業務を昭和50年度、昭和51年度の二カ年の継続費で委託した。

第二期事業認可処理区域 535.4ヘクタール

金 額 25,000,000円

# 工 事 係

## 1 公共下水道工事

福生市公共下水道事業計画に基づき、快適で衛生的な都市環境づくりを目指すため、次の工事を行った。

名 称		場 所	金 額	内 容
福 生 南 部 第 一 処 理 分 区 S   50	その 2	福生地内	冊 3,400	管路施設工 φ350 133.20m マンホール 4 汚水マス 10
	その 3	福生地内	3,400	φ250 143.05m マンホール 5 汚水マス 11
	その 4	牛浜地内	16,600	φ500 195.70m マンホール 6
	その 4'	牛浜地内	12,550	φ500 φ300 φ250 84.10m マンホール 2 汚水マス 25
	その 5	熊川地内	14,930	φ250 φ200 619.8m マンホール 25 汚水マス 53
	その 6	熊川地内	19,350	φ250 φ200 782.65m マンホール 26 汚水マス 70
	その 7	福生地内	10,040	φ250 306.60m マンホール 10 汚水マス 12



名 称		場 所	金 額	内 容
福 生 南 部 第 一 処 理 分 区  S   50	その 8	志 茂 地 内 牛 浜	17,600	$\phi 250$ 472.95m マンホール 15 汚水スス 15
	その 9	志 茂 地 内	24,650	$\phi 250$ $\phi 200$ 988.10m マンホール 31 汚水マス 85
	その 10	志 茂 地 内	15,350	$\phi 250$ $\phi 200$ 714.30m マンホール 26 汚水マス 58
	その 11	熊 川 地 内	7,900	$\phi 250$ $\phi 200$ 338.30m マンホール 13 汚水マス 34
	その 12	牛 浜 地 内	12,960	$\phi 350$ $\phi 250$ $\phi 200$ 543.95m マンホール 16 汚水マス 63
福 生 中 部 処 理 分 区 S   50	その 2	本 町 地 内	26,920	$\phi 250$ $\phi 200$ 824.40m マンホール 26 汚水マス 91
	その 3	本 町 地 内	19,560	$\phi 250$ $\phi 200$ 718.95m マンホール 30 汚水マス 74

名 称		場 所	金 額	内 容
福 生 中 部 処 理 分 区  S   50	その 4	本町地内	21,710	$\phi 250 \phi 200$ $832.20m$ マンホール 31 汚水マス 71
	その 5	福生地内	21,930	$\phi 250$ $744.40m$ マンホール 28 汚水マス 74
	その 6	福生地内	12,600	$\phi 250$ $551.65m$ マンホール 20 汚水マス 51
	その 7	福生地内	3,130	$\phi 250$ $177.70m$ マンホール 7 汚水マス 13
福生南部第一及び 中部処理分区 S-50 その1		本町地内	19,790	$\phi 250 \phi 200$ $765.0m$ マンホール 25 汚水マス 81
福生南部第2処理 分区 S-50 推 進 工 事		熊川地内	150,000	$\phi 800$ $343.0m$ マンホール 4 50.51年の2カ年事業
市道1057号線 排水管理設工 事		福生地区	9,750	$\phi 250$ $332.0m$ マンホール 13 汚水マス 12

公共下水道工事（污水管のみ）年次別状況

	昭和48年度	昭和49年度	昭和50年度	合計
管渠布設面積	4ha	14ha	37ha	55ha
管渠延長	1,009.04m	3,149.75m	9,937.0m	14,095.79m
マンホール	40	132	346	518
汚水マス	109	326	891	1,326
工事費	24,320千円	84,810千円	284,370千円	393,500千円

2 横田飛行場排水路事業

横田飛行場周辺地域の水害を防止すべく、次の事業を行った。

(1) (中央幹線支線排水路)

名称	場所	金額	内容
開削工	福生地内	45,000 <sup>千円</sup>	φ1500 238.08m マンホール 4
推進工 (その1)	福生地内	72,000	φ1500 164.26m マンホール 2
推進工 (その2)	福生地内	88,000	φ1500 204.12m マンホール 1

(推進工その1、その2については、昭和50～51年度の2年度事業である。)

(2) (武蔵野幹線排水路) シールド工事内径 3,500mm

工 区 別	場 所		その 1	その 2	その 3	合 計
第 一 工 区	熊川地内	金額(千円)	619,211	97,480	308,100	1,024,791
		延長(m)	235.0	76.5	93.75	405.25
第 二 工 区	熊川地内	金額(千円)	667,688	98,100	362,400	1,128,188
		延長(m)	247.0	68.0	92.5	407.5
第 三 工 区	熊川地内	金額(千円)	466,533	232,310	278,400	977,243
		延長(m)	279.5	68.2	62.6	410.3

(その1、その2工事については、昭和49～50年度、その3工事については、昭和50～51年度の2年度事業である。)

工 事 名	場 所	金 額(千円)	延 長(m)	内 容
その 4	熊川地内	620,000	324.25	シールド工内径 3,000mm ボックスカルバート工 □2.5m×4.5m～□3.6m×6.0m

(本工事については、昭和50～51年度の2年度事業である。)